

富士御室浅間神社

富士大室浅間神社は、富士山山中に存在する中で最古の神社です。699年に吉田登山道の2合目（標高1700メートル）付近に建立されました。958年には、地元の参拝者が参拝しやすい、15kmほど離れた河口湖の南岸に建設されましたこれらふたつの社は、それぞれ「本来の神社（本宮）」と「村の神社（里宮）」として知られるようになりました。

修験者は引き続き本宮を参拝し、17世紀からは絶え間なく続く富士講巡礼者がこれに加わりました。しかしながら、1964年に富士スバルラインが五合目への直通サービスを開始すると、参拝者数が大幅に減少しました。今ではほとんど参拝されることのなくなった本宮を損傷や火事から保護するため、1973年に里宮の近くに移動したのです。今では崩壊しつつある拝殿だけが富士山の斜面に残っています。

驚異の建築物

この神社は、この地の大名と密接な繋がりがあります。16世紀には、近隣の甲斐の国の領主だった武田信玄が参拝していました。今なお現存する里宮の本殿は、江戸時代（1603-1868）が始まった直後の1612年に徳川家が寄進したものです。この神社は、唐破風と桧皮の屋根板という安土桃山時代（1568-1600）の神社建築様式を維持しています。

浅間神社にしては珍しく、参拝者は富士山の山頂を背にして参拝するような向きに建てられています。これは、富士山が毎日神社まで下山し、神社の中に鎮座すると考えられていたからです。

鳥居の側にある像は、他の神社に見られるものよりずっと小さいものです。とある伝説によると、これらの像は、鵜の島に祀られている弁財天様との睦み合ったため、その罰として富士山が小さくしてしまったということです。

流鏝馬：騎射

4月29日には、この神社は流鏝馬として知られる馬上から矢を射るショーを開催します。今日の流鏝馬の伝統は、配下の侍たちの娯楽に流鏝馬を奨励した、初代鎌倉将軍の源頼朝（1147-1199）の時代にさかのぼります。この神社の流鏝馬奉納は、以前は山の中の馬場と呼ばれる場所で行われていましたが、今では神社そばの公園で行われています。